

六ツ美南部学区 福祉委員会です。



地域にやさしい みんないきいき

私たちはだれでも、住み慣れた地域で安心して生活できることを望んでいます。

しかし、私たちの身のまわりでも高齢化、少子化は急速に進行しており、地域の中には一人暮らし高齢者、ねたきり・認知症の高齢者をかかえる世帯など、公的なサービスを含めた何らかの手助けがないと地域で安心して暮らしていけない家庭が増えています。その他にも一人親世帯、障がい者世帯等何らかの手助けが必要な方も多く生活されています。

そこで、“困った時はお互いさま”“向こう三軒両隣り”の感覚で、ちょっとした支援をしあうことで昔ながらの地域コミュニティが復活すれば、お互いに、より安全で心豊かな生活になるのではないのでしょうか。

そのために、学区で地域福祉に心ある方が中心になって福祉委員会を組織し、自主的な活動を通じて地域として必要なものを見つけ、行政や社会福祉協議会とも共同して住みよいまちづくりを実現していく役割が期待されています。学区福祉委員会はそのためのものである一つの組織の一つです。

今回、学区福祉委員会の活動目標となる「小地域福祉活動計画」を作りました。今後はこれを目標に地域福祉活動を行っていきます。

1 六ツ美南部学区 福祉委員会とは

●六ツ美南部学区福祉委員会の特徴

(平成 12 年 4 月 20 日設立)

- ・市民ホームに事務局を置き、活動拠点としています。
- ・福祉委員は 49 人です。そのうち 8 人が役員、学区内 15 町から福祉委員を選出し、各町に 1 人ずつ幹事をおいています。
- ・民生委員は福祉委員を兼ねるようになっています。
- ・福祉委員の約 2 割は地域の他団体の委員等を兼務していますが、その他の 8 割は福祉委員のみを拝命しています。
- ・福祉委員の約半数は委員任期を継続しています。
- ・日頃の活動は、各町（15 町）単位で、それぞれ実施しています。

六ツ美南部学区

六ツ美南部学区は、人口約 11,000 人、世帯数が約 3,000 世帯で、高齢化率が約 11.6%と比較的若い人口構成です。デンソー等の大企業に勤める人々のベッドタウン的な学区で、昼間の人口が減少します。「悠紀齋田お田植え祭」等、伝統的な文化を継承し、古くは農家が大半でしたが、現在は非農家が多くなっています。



2 主にこんな活動をしています

●いきいき教室

(「おしゃべりしましょう、歌いましょう会」)

●見守りネットワーク活動

●悠悠クラブ

●健康講座

●お食事会とおしゃべり会

●会報(福祉だより)の発行

●ふくしのサロン活動



●いきいき教室

(「おしゃべりしましょう、歌いましょう会」)

場 所／六ツ美南部学区市民ホーム

開催日／毎月第1月曜日 午前10時～12時

実施にあたり学区内の一人暮らし高齢者を対象に、参加を呼びかけるチラシを配布。当初は希望のあった22人を対象にスタートしました。その後、口コミで参加者が増加し、現在は35人に増加。実施方法は、福祉委員の進行でシナリオはあるものの自由度の高い展開での歌唱、タイムリーな地域の話題等が体感できる企画。また、次回につながる内容を意識した進行等にも工夫し、選曲はもとより歌にまつわる話や体験等を引き出す回想法的要素を含む教室です。定期的に行う地域交流として位置づけています。

●見守りネットワーク活動等

①町内見回り活動を展開

月1回ペースで、地域のお宮、公園、商店街等を巡回。児童の見守り、防犯等を目的に実施。毎回、福祉委員が2人以上でグループを組み、学区独自で作成した腕章を身につけて実施。実施日、巡回時間は各町内ごとに決めています。これまで放置自動車・放置自転車の撤去、社内生活者の通報、花火・焚き火後始末、児童の夜間徘徊等に対応。巡回日には、一人暮らし高齢者世帯への訪問を並行して実施しています。

②激励訪問

2か月に1回(年6回)の頻度で福祉委員が75歳以上の一人暮らし高齢者世帯を訪問。訪問時には、メッセージカードを添え、BOXティッシュや洗剤等をお届けしています。

③友愛訪問

毎年、2月に70歳以上の一人暮らし世帯及び高齢夫婦世帯を訪問。平成18年度は、携帯用スリッパ、平成19年度は足つぼ踏み板を訪問時にお届けしました。

福祉委員はこの腕章をつけて見守りネットワーク活動をしています。



福祉委員

●お食事会とおしゃべり会

75歳以上の高齢者を対象に南部地域交流センターにおいて、年1回実施。当日の食事はボランティアグループマーガレットの協力を得て準備するなど、市内の既存のボランティアと連携して開催しています。参加者は30人程度。参加者の便宜を図るため、当日は福祉委員が参加者の自宅から会場までの送迎を実施しています。

3

六ツ美南部学区 福祉委員会の小地域福祉活動計画

「岡崎市地域福祉計画」(市計画)、「岡崎市地域福祉活動計画」(市社協計画)の内容やこれまでの学区福祉委員会での検討を踏まえて、今後5年間の中で次の活動に優先的に取り組みます。

事業1 おたよりボランティア事業

活動のイメージ

- ①学区内の保育園、幼稚園、小中学校に協力し、高齢者等に向けた年賀状等を作成してもらいます。
- ②作成していただくものは、年賀状、絵手紙、カレンダー等、交流や実用につながるものとします。
- ③学区福祉委員会等を通じて、対象者に作品を配布します。

活動の目的

身体的な理由等でいきいきサロン等に参加できない高齢者に対して、不安や孤立の解消を図り、心理的なサポートを目指します。あわせて、子どもに対しては地域で暮らす様々な人々に対する理解を促します。

対象

地域の子ども。一人暮らし高齢者等。

▼絵手紙のサンプルです。



地域福祉活動の流れ

- ①学区福祉委員会から地域の学校等へ協力を依頼します。

すべての学校等から承諾が得られるかどうかわかりませんが、承諾が得られた範囲で準備を進めます。これは協力していただく相手があって実施できる活動なので、一貫して相手方の事情を踏まえて進めます。

- ②活動計画を作成します。

配布時期、対象者数、年間回数、割り当て等、具体的な年間の活動計画を作成し、作品の依頼数等を検討します。

- ③学校等へ制作依頼をします。

必要に応じてこの取り組みの趣旨等について、直接説明に出向きます。

- ④学校等から作品を受け取り、対象世帯に配布します。

宛名表記、差出人表記等については、プライバシーに配慮できるよう検討します。

- ⑤学校等への報告

配布の完了、対象者の反応等について学校等に報告し、事業の継続について依頼します。

六ツ美南部学区福祉委員会 標語 (その1)



○ 悠紀はたのしい 福祉のサロン
歌におしゃべり月曜日

○手を叩き 足を鳴らして 輪になって
悠悠クラブは木曜日

事業 2 世代間交流事業

活動のイメージ

- ①子供を含めた三世代というイメージではなく、ヤングシルバー世代を含めた中高年者が学区内で交流できる機会を創設します。
- ②将棋、囲碁、健康麻雀、木工、絵画、楽器等を覚えながら楽しめるような場を創設します。
- ③受動的参加ではなく、参加者自らが指導者を務めるような機会を設けます。

活動の目的

60代からのヤングシルバー世代の能力活用及び地域活動への参加のきっかけづくりを目指します。

対象

主にヤングシルバーの男性層



地域福祉活動の流れ

- ①取り組む講座メニューをリストアップします。
場所・回数・費用等を勘案し、重装備のいらない講座メニューをリストアップします。
- ②リストアップした講座の指導者に、ボランティアとして務められる人を募集します。
会報等で周知するとともに、関係者の知人等のルートも追及します。
- ③応募のあった指導者と講座のイメージ、開講計画等について検討します。
内容に応じて、規模、回数、最少催行人数、行程のイメージ等を具体化します。
- ④講座参加者の募集と講座の開催
会報等で周知し、講座を開催します。
- ⑤定期的な総括及び講師・参加者の満足度について確認します。
各講座の終了に参加者・企画者双方の振り返りを行うとともに、1年に1回は事業の評価見直しを行います。

六ツ美南部学区福祉委員会 標語 (その2)



○ 歌とお喋り たのしくつどう
いきいき教室 六南福祉

○ 歌おう 話そう 輪になろう
福祉が作る 住みよい六南 悠紀の里